学校番号	T3009

令和8年度　理科

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	化学基礎　新訂版（実教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業に出席し、1時間毎の内容をしっかり理解する。
・日々のプリントはその時間内に完成させ、提出する。間に合わない場合、考査前には必ず提出する。
・物質の成り立ちや、肉眼では見えない化学を知り、基本的な概念や原理・法則を学ぶ科目である。
・授業プリントにある演習に自ら取り組み、定期考査に向けて考え方・解き方を身に付けておこう。
・定期考査ごとに学習範囲を告知するので、自分なりに計画を立てて復習しよう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】 物質の成り立ちや、肉眼では見えない化学について理解するとともに、化学の果たす役割を知り、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】科学的なできごとに関心をもち、自らの疑問を発問することができ、 主体的に調べることで科学的に探究しようとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	自然界や産業界にある事物・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現することができる。	自然の事物・現象に進んでかかわり，科学的に探究しようとする態度が養われている。 自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活とのかかわりについて社会が発展するための基盤となる化学に対する興味・関心を高めている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	1節　物質量と化学反応式	1　原子量と分子量・式量 2　物質量 3　溶液の濃度 4　化学反応式	a:化学式が使用できるとともに、原子量･分子量･式量･物質量の知識を身につけている。 a:「実験７　溶液の調製」において、メスフラスコ、ホールピペットなどの実験器具を適切に取り扱い、目的とする濃度の水溶液を調製する技能を習得している。 b:モル濃度が、溶液の体積と溶質の物質量との関係を表していることを理解し，質量パーセント濃度とモル濃度の違いを表現することができる。 c:「実験８　化学反応式の量的関係」を行い，反応式の係数が、物質量の比を表していることを見出すことができる。	考査点 授業プリントの記述内容	授業プリントの記述内容 実験課題等のレポート	授業態度 取り組む姿勢
	2節　酸と塩基	1　酸と塩基 2　水素イオン濃度とｐＨ	a:酸･塩基の定義を理解し、日常生活と関連つけて酸･塩基の反応を捉えることができる。 a:酸･塩基の化学式や酸･塩基の反応を通して、酸と塩基の共通性を見出し、酸･塩基の定義を理解できる。 b:酸･塩基の価数・強弱の関係を電離度に関連付けて考察することができる。 b:「実験10　いろいろな水溶液のpH測定」を行い、pH試験紙でいろいろな溶液や身近な物質のpHを測定し，さまざまな酸・塩基の強弱について考察することができる。 c:酸・塩基はどのような物質であるか探究するとともに、酸性、塩基性の程度を表す方法を探究しようとする。	考査点 授業プリントの記述内容	授業プリントの記述内容 実験課題等のレポート	授業態度 取り組む姿勢
後期	2節　酸と塩基	3　中和反応と塩	a:中和反応における量的関係を理解している。 b:「実験11　中和滴定を行い，メスフラスコ、ビュレット、ホールピペットなどの実験器具の取り扱いができると同時に、酸･塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を実験で求め、それらを表現することができる。 c:酸・塩基はどのような物質であるか探究するとともに、酸性、塩基性の程度を表す方法を探究しようとする。	考査点 授業プリントの記述内容	授業プリントの記述内容 実験課題等のレポート	授業態度 取り組む姿勢
			a:酸化・還元の定義を理解し、酸化と還元が同時に起こることを理解し			

後期	3節　酸化還元反応	1　酸化と還元 2　酸化剤と還元剤 3　酸化還元反応の起こりやすさ 4　身のまわりの酸化還元反応	ている。 a:酸化還元反応の量的関係を理解している。 b:酸化数の定義を適用できる反応を見出すことができる。 b:酸化反応・還元反応で起こるイオン反応式を書くことができ、イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができる。 c:酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学反応をとらえ，意欲的に探究しようとする。	考査点 授業プリントの記述内容	授業プリントの記述内容 実験課題等のレポート	授業態度 取り組む姿勢
	終章　科学技術と化学		a:身のまわりの生活と化学基礎で学んできたことを結び付け，化学が生活に役立っていることを理解する。 b:身のまわりの生活に生かされている科学技術について，化学的に説明し，表現することができる。 c:化学基礎で学んだ事柄が，日常生活や社会を支えている科学技術と結びついていることを意欲的に探究しようとする。	授業プリントの記述内容	授業プリントの記述内容	授業態度 取り組む姿勢

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度